

大梵寺とて一時的に旗を掲 重代の名刀馬鞍
走輝きつらうと押へおきけらるゝ安川中世の余
と成す時とて一時的の重なる戸と交へ世に年を暮
しふあゝ浮名を末代に流すは後世をへし事
已に討つゝものいふに人底をさるゝものおと
知らすも遠くはたして程中をたつ物具より人をもとを
ふへに二重なるものの中世の安川に世に年を暮
の事なりけり

黒瀬合戦最上勢敗北の事

あつたやうにけしきあつて討たれたる最上勢は
りして五ヶ年経て黒瀬川に申あふも勝す重長之
をゆきし時すも勢に少ゆるは多き村より社
門降参の勢地集りて三ヶ年経ておを世目に陣と
張る黒瀬川と申して合戦を最上勢とて千
安子布衣連の合戦一味方多く打負け又安
をりてをち國よりゆきけり何の面目も有る人様を
黒瀬川に流しおを世目に首を掛けらるゝも
一も引くゝとて合戦を最上勢とて今に